
しあわせのありか

かりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しあわせのありか

【Nコード】

N4997V

【作者名】

かりん

【あらすじ】

宮殿に食べ物がなくなつて、王様はお触れを出しました。

短編小説サイト【セカイのカタチ】 / 童話館【ぐるぐるの森】からの転載です。

しあわせのありが

そこは、平和な国でした。

緑の大地は美しく、町には笑いがみちあふれ、人々はたいそう幸せでした。

ところが、ある日、まっ黒な雲が現れて、空を覆ってしまいました。

作物はとれなくなり、倉庫に蓄えた食料も、みるみる内に減っていきます。

王様は、お触れをしました。

「下々の食料をとりあげよ」

貧しい暮らしの人々が、飢えて死んでいきました。

宮殿内の食料は、すぐに、なくなってしまいました。

王様は、お触れをしました。

「下々の食料をとりあげよ」

普通の暮らしの人々が、飢えて死んでいきました。

宮殿内の食料は、すぐに、なくなってしまいました。

王様は、お触れをしました。

「貴族の食料をとりあげよ」

宮殿内の食料は、少しだけ長もちしました。

貴族たちは大きな倉庫を持っていたからです。

けれど、宮殿内の食料は、やがて、なくなっていきました。

王様は、お触れを出しました。

「貴族の食料を没収せよ」

倉庫の食料を出し渋っていた貴族たちが、飢えて死んでいきました。

宮殿内の食料は、少しだけ長もちしました。

貴族たちの食料庫は、とてもとても大きかったからです。

けれど、宮殿内の食料は、やがて、なくなっていきました。

町に、人はいなくなり、貴族もみんな、いなくなり、国の中で人がいるのは、宮殿の中だけになりました。

けれど、大勢で食べるものだから、宮殿内の食料は、だんだん少なくなっていきました。

王様は、お触れを出しました。

「宮殿内の食べものを、全部ここへ持ってこい」

最後の食料をさしだして、王に仕える召使いも、バタバタ死んでいきました。

王様の妻と子も、次々死んでいきました。

風邪をひいても、診てくれるお医者さんがいなかったのです。

がらんと広い宮殿には、王様の他には、だあれもいない。

食べるものはどっさりあるのに、くる日もくる日も一人ぼっち。

「どうしてだろうな」

山と積まれた食事を前に、王様は首をひねります。もう、心配なんか、しなくていいのに、

「なんだか、ちっとも、おいしくないんだ」

）

しあわせのありがた

）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4997v/>

しあわせのありが

2011年10月9日14時18分発行